



龍谷大学社会科学研究所アフリカ研究センター
The Center for African Studies, Research Institute for Social Sciences, Ryukoku University

ソシオン理論の概要と国際関係分析への適用可能性

ソシオン理論は、1990年代に関西大学の研究者によって構築され、その後、主に日本で発展を遂げてきた関係性モデルです。ソシオン (socion) とは、神経回路網 (ニューラルネットワーク) をつくるのがニューロン (neuron) ならば、社会関係網 (ソーシャルネットワーク) をつくるのはソシオン (socion) と呼べるのではないかと、という発想から命名されたものであり、それは「社会をネットワークという視点から見たときの1単位」のことを意味します。アフリカ政治研究の世界でもパトロン=クライアント関係といった関係性概念がしばしば用いられてきましたが、それは必ずしも十分に精緻化されてきませんでした。今回の研究会では、日本 (関西) で生まれた、社会学や心理学の分析ツールであるソシオン理論の基礎と概要をゼロから学ぶとともに、アフリカの国内社会やそれを取り巻く国際社会をそれぞれひとつのネットワークとして捉えて、それらのより緻密かつダイナミックな分析のために、果たしてソシオン理論を援用できるのかどうか、その可能性と課題を模索します。

■講師：石盛真徳氏 (追手門学院大学経営学部准教授)

■日時：2017年9月16日 (土) 15:00 ~ 17:30

■場所：龍谷大学深草学舎 紫英館 2階 第一共同研究室

■共催：文部科学省科研費・新学術領域研究 (研究領域提案型)

「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて:関係性中心の融合型人文社会科学の確立」計画研究 A02
「政治経済的地域統合」

■連絡先：ochiai[at]law.ryukoku.ac.jp (落合雄彦)

